

成 大 ファイン 緊急時の自家 発電機を導入

大成ファインケミカル(千葉・稲生豊人社長)は、昨年の東日本大震災の被災を機会に本社・工場の機能を維持できる自家発電機が、3月から稼働が

可能になることを発表した。これにより、停電時でも事業所のほぼ全ての電力を供給できるとい

う。既存の自家発電機は、製造工程における反応装置の攪拌機の電力を確保し、安全確保を目的として必要最小限の電力供給(1802kW/h)を目的に1996年に導入していた。

しかし、昨年の東日本大震災で被災した本社・工場では、震度6強でも

機本体を総額約4500万円で設置。一部を千葉県より「中小企業電力確保支援事業」の認定で補助金を受け、残りの資金は国の震災金利補助制度を受けた。

緊急時の従業員的安全確保、サプライチェーンを断たないための供給責任を果し、事業と雇用の安定が強化される。また、今年も予想される夏季の節電対策にも自家発電装置を稼働させ、節電への協力も企業の社会的責任を果すことにつながる。

事業継続の計画は、東京営業所にて東京都の「BCP策定支援事業」の認定を受け、ニユートン・コンサルティング(東京・副島一也社長)の指導で作成した。また、生産・物流の拠点である本社・工場では、自家発電

安全性を維持し、事業を継続することを目標に「事業継続計画(BCP)」の作成とその活動を進めてきた。活動の一環として、事業所で必要な電力を全てまかなえる自家発電機(480kW/h)の導入を行った。

緊急時の従業員的安全確保、サプライチェーンを断たないための供給責任を果し、事業と雇用の安定が強化される。また、今年も予想される夏季の節電対策にも自家発電装置を稼働させ、節電への協力も企業の社会的責任を果すことにつながる。

機本体を総額約4500万円

2012年2月15日 緊急時の自家発電機を導入 塗料報知新聞に掲載